

2020年6月24日

学校法人三幸学園
福岡医療秘書福祉専門学校
校長 岩本 克也 殿

学校関係者評価委員会
委員長 糸山 龍介

学校関係者評価委員会実施報告

2019年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 医療法人社団廣徳会 岡部病院 糸山 龍介様
- ② 公益財団法人 福岡県介護福祉士会 鈴木 裕二様
- ③ 株式会社リクルート 北村 岳人様
- ④ 井上 可奈子様 (2016年度卒業生)
- ⑤ 中里 倫子様 (2012年度卒業生)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2020年6月24日(会場 福岡医療秘書福祉専門学校 201教室)

3 学校関係者委員会報告

別紙「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2019年度 学校法人 三幸学園 福岡医療秘書福祉専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 本多 未佐

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 糸山 龍介

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療現場で医療事務・診療情報管理を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え続ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

・人間性を高める教育の実践

「相手のこうしてほしいを理解し、考え動ける人材」を育成することを、目指す人材育成とし、単に知識や技術を研究するに留まらず、人間性を高める教育を併せて展開することにより、真に社会に役立つ人材を輩出することに努めた。

・挨拶指導、清掃指導の強化

コミュニケーションの基本である挨拶については TPO に応じて実践できる様にきめ細かい指導を実践できた。また、清掃指導についても自ら率先して実践することができるように日々の取り組みを積み重ね、習慣化できるように指導を強化した。本年も継続して実施している。

・産学連携の促進

ボランティア、短期・長期インターンシップの機会提供を積極的に行い、公開講座や学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等を通じたアドバイスを取り入れながら業界・地域密着型の学校運営を強化した。

また、現場施設の指導者様からの講話を年 4 回、福祉機器事業所様の研修を年 1 回実施し、カリキュラムに反映させることができた。

・キャリア支援の強化

キャリア醸成に対する工夫。現場で活躍する人材の育成をするためにも学生時代から自身の今後のキャリアについて考える習慣をつけていけるよう運営を強化してきた。

診療情報管理士科においては実習を 2 年次に 1 回 4 週間から、1 年次に 1 回 2 日/2 年次に 1 回 3 週間に変更した。1 年次から必要な知識や求められていることを実感することで、2 年次の学びや実習やキャリア醸成に繋がった。

福岡県の学校及び関係福祉団体と合同で行った福祉のイベントへの参加などを通じて、介護福祉士となる自分達が社会から何を期待されているのか、社会に何を発信していくべきなのかを感じ、キャリア醸成につながっていた。今後も学生には、外部関係団体と関われる機会を持たせていきたい。

② 学校関係者評価委員会コメント

・北村委員(診療情報管理士科・介護福祉科について)

学校ごとに特色があって、三幸学園の学生は発言を多くするなど主体性がかかなりある。介護業界の学生には、想いは凄くあるが、言語化や世の中への発信能力が足りない部分がある。

・井上委員(介護福祉科について)

現場に入って思っていたのと違うということはある。理想はあるが目の前の作業に追われてしまい、自分の想いの方が小さくて周りが大きくなって押しつぶされて崩れていってしまう。学生時代にイベントを通じて想いを伝えるという主体的に動いた経験を積むことは非常に重要である。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

・各業界に沿った「相手」のこうして欲しいを理解できる人材を育成するためにも、まずは社会や業界が求めている人材育成像を知ることが必要ではないか。

② 今後の改善方策

- ・教育理念、人材育成像の継続した掲示(見える化をすることで学校の教育特徴を創り上げていく)
- ・スタートアッププログラム(新入生研修)や学校生活でのクラス目標設定の際、教育理念および人材育成像の浸透に向けた積極的な働きかけを、今後も継続して実施していく。
- ・学生への周知の為に学生便覧に教育理念、人材育成像を掲載した。
- ・福岡市福祉人材協働ワーキング等、業界関連の方々との情報交換の場には積極的に参加し、急速に変化する現場の状況をタイムリーに教育内容に反映していく。

③ 特記事項

- ・業界の動向やニーズを実習アンケートで得たデータを元に分析し、教務方針・目標に取り入れた。
- ・体系化された教育理念、ビジョン、ミッション、人材育成方針を教務指導目標に取り入れ、具体的な指導を計画し取り組んでいる。
- ・介護分野における留学生の受け入れの教育準備体制を整えるために、介護職種の技能実習指導員講習を教員全員受講し、修了した。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・鈴木委員(介護福祉科について)

介護業界で求めている人物像は相手のこうしてほしいを理解できて、自分のこととして受け入れて行動に移せる人材が大前提である。細かい技術は現場で教えることができるが、福祉理念を持っている学生が非常に大切である。無資格者を採用し育てていく方向しかないのかなと思うほど人材不足である。既卒者も全く来ず、人材派遣会社に依頼し時間勤務者を募集している状況である。介護福祉士以外取らないとしていた会社も方針を変更している様子がある。介護業界で働きたいと思ってもらえるビジョンを提示することが必要である。

・糸山委員(診療情報管理士科について)

医療業界で求める人材は「知識・技術よりも優しさ」を重視している。話を聞いてほしい患者様が多いため、患者様に寄り添うことができる人材を求めている。

(2)学校運営

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	3
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

- ・教員のワークライフバランスや残業時間の管理について

② 今後の改善方策

- ・就業規則遵守を徹底し、ワークライフバランスや業務効率化を積極的に推進する。
- ・ノー残業デーを年度初めに設定することで、ワークライフバランスや業務効率化の意識を高める。
- ・コンプライアンス研修やハラスメント研修を行い、職員の意識を高める。

③ 特記事項

- ・就業規則、職員行動指針を設定し、年度ごとに改定している。内容については職員会議で共有している。
- ・在宅ワーク、フレックスを利用した出勤体制を積極的に取り入れた。
- ・インフォクリッパーによる学生情報のシステム化を行い、教務に関わる教務事務についても研修を行った。
- ・福岡事務局が立ち上がり、事務業務(教務事務、申請関係など)をさらに分業することができた。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・糸山委員(診療情報管理士科について)

医療業界ではコロナ禍に伴う在宅ワークは行っていない。目の前の患者様・利用者様が第一であり、玄関口での検温等は現場でしかできないので、遠隔では難しい業務が多い。職員のモチベーションについては、お手紙を匿名でいただくなど企業様から頂いたものは、励みになっている。受入病院ではないが、常に恐怖と戦っていることもあり少し偏見がある中で、外部の方から励ましをいただくと非常に力になる。

(3)教育活動

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

・診療情報管理士科の企業や関係施設との連携による職業教育、教育活動の質の向上。

② 今後の改善方策

- ・診療情報管理士科について、担当教員の知識不足が毎年課題となっているため、業務内容ややりがいなど知るためにも、現場で働かれている方の話を伺い、現場研修に参加させていただく。
- ・医療機関や関係イベントでのボランティア機会を増やし、産学連携の強化を行う。

③ 特記事項

- ・福岡市役所主催の健康診断や社会福祉協議会主催の介護イベントのボランティアスタッフとして参加。
- ・教育課程編成委員会の定期開催により、教育課程編成医院からの意見をもとにカリキュラム運営や実習運営の改善機会が増えた。
- ・教育の質の向上を目指し、教育課程の体系図(カリキュラムマップ、科目連携表)を作成し、科目間における連動性を可視化し、教員間で共有した
- ・教育の質・指導力の維持・向上のために、介護福祉士養成施設協会が主催する教員研修会へ 2 名参加し、全員に情報共有を行った。
- ・福祉施設における職員への現場研修の講師として、学校より教員を 2 名派遣した。
(「認知症の対応」「接遇研修～虐待を防止するために～」)

④ 学校関係者評価委員会コメント

・糸山委員(診療情報管理士科について)

診療情報管理科の学生が病院でできることとしては、他の施設や介護の現場を見て、患者様・利用者様と触れ合ってもらいたい。患者様とかかわることが一番の勉強になる。学生に仕事をお任せすることや、個人情報を取り扱うことは難しい。

・北村委員(診療情報管理士科・介護福祉科について)

職員の能力開発のための研修は行っている。教育・就職・広報という3つの研修を行っている。入職後のみならず、学校の要望によって応じている。研修を受けっ放しや聞いて理解して終わりではなく、しっかり実践し、定期的に内省し矯正するということを繰り返すことによって初めて体現される。

(4)学修成果

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・卒業後の卒業生の状況把握をし、学校カリキュラムに活かすような仕組みづくり。卒業生が転職の相談、仕事の相談をしやすい環境づくり。
- ・卒業生による講話など、卒業生とのつながりを強める。

② 今後の改善方策

- ・退学率低減のために入学時から保護者との連携を強め教員間でも情報共有と連携したサポートを行っていく。
- ・教育開発部主導で卒業生動向調査を実施し、卒業生の現在の進路等の調査を行い、検証する。
- ・継続して各種教育アンケート(授業・実習・卒業生)を実施し、課題発見と具体的な施策検討を進める。

- ・求人や実習先の新規開拓と共に就職先が求める人材像の把握のため教職員の積極的な医療機関、施設、園への訪問、ヒアリングを実施。
- ・卒業生の同窓会サイトの利用により、情報収集が図れるようにする。

③ 特記事項

- ・従来の就職活動のスケジュールを見直したキャリア支援を行った。
- ・学科間の連携を強め、学科ごとのニーズや課題に応えるために学科会議を定期的実施した。
- ・具体的な結果は以下の通りである。
2019 年度進路決定率: 診療情報管理士科業界内就職率 94% 介護福祉科業界内就職率100%
2019 年度退学率: 8.7%(学校全体数)
診療情報管理士科 診療情報管理士認定試験合格率 76.5%
介護福祉科 介護福祉士合格率 100%

④ 学校関係者評価委員会コメント

・中里委員(診療情報管理士科について)

学生時代に卒業生との繋がりは感じなかった。学生時代にしてほしいこととしては、実習が終わってから就職までの期間が開いてしまうので、就職の話や認定試験の話を早めからしてほしい。卒業生として話す場合は、卒業してすぐの方が勉強の仕方等は身につけているため、認定試験の勉強法については話しやすい。大勢が参加する就職説明会よりは少人数で詳しく説明が聞ける機会があると良い。

・井上委員(介護福祉科について)

介護福祉科は先輩が頻繁に来てくださっていたので、就職後の話を聞くことや、試験の勉強の仕方を聞く機会は多かった。とても心強かったので、ウェルカムな雰囲気は継続してほしい。卒業生からすると学校の授業・行事スケジュールが不明瞭の為、行きたいけど行っていないのかという思いが強い。いつの時間がおすすめというような発信を SNS 等で発信してもらえると大変ありがたい。完了報告よりは実施予告の発信が卒業生としては必要である。色々な所のリンクを繋げるようにし、学科の部分掘り下げて発信すると良いと思う。写真よりは動画の方が人間性を感じて、具体的なイメージが湧きやすい。学校や運営側は話を聞いてくれる人を望んでいると言われるが、現場ではスピード重視となっている為、ブレなくて良いということ発信してほしい。介護業界の改正状況等を学校が間に入って情報発信していただきたい。

「有資格者であることのメリットについてのアドバイスをいただきたい」

・糸山委員(診療情報管理士科について)

基礎がしっかり学べるので短大より専門学校に行く方が良いというように伝えている。短大からの就職希望者より、専門学校からの就職希望者を多く採用したいと思っている。医療事務員はレセプトなどの専門的な部分があるので専門学校を卒業し資格がある学生を採用し、クラークは短大を卒業した学生を採用している。

・鈴木委員(介護福祉科について)

根拠を持ってアプローチをしているかどうか重要である。根拠がないことをやってしまって、良かれと思って行っていることが、患者様・利用者様にとってはデメリットのことをしている可能性がある。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

- ・通信制高校や既卒入学者の増加により、生徒の多様性や、世代の価値観理解等の必要性が高まっている。
- ・保護者との連携は更に強化する必要がある。

② 今後の改善方策

- ・スクールカウンセラーの配置や個別の悩みや相談に対応する環境を設定していく。
- ・保護者向けの説明会の実施。新型コロナウイルス感染症防止策の為、年度当初に実施できなかった分、定期的な便りや電話連絡等でこちらから情報発信していく。
- ・診療情報管理士科においては、保護者面談を検討。保護者と連携して、3年間の学校生活のサポートや各検定対策を行っていく。
- ・オンデマンドを活かした行事運営を考え、保護者や現場の方にも参加していただく。

③ 特記事項

- ・各学科、後期に入り専門科目の習熟度が進んだタイミングで、授業で学んだことの研究発表の機会を作っている。（介護福祉科:学びの会 診療情報管理士科:研究発表会 など）
- ・介護福祉科において、前期保護者面談を実施。学生ひとりひとりの状況に合わせた支援について情報を共有することができ、その後の実習や国試に向けて、保護者と協力しながらすすめることができた。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・北村委員(診療情報管理士科・介護福祉科について)

高校生の就職率・進学率の推移に変化なし。ただし、今年はコロナ禍の影響で就職に影響が出るのではないかとこの予想が立っているが、進学には大きく響いてくる。大学向けの調査結果ではあるが、コロナ禍の影響で進学希望分野の変更はない。第一志望学校も変更ないが、第二志望以降の分野や学校は50%ぐらいが変更有との結果が出ている。専門学校では影響が出るのではないかと考えている。高校では50%強ぐらいの保護者が説明会に参加しているため保護者会が求められている時代である。保護者との接点を増やすことは重要になってきている。

面談ではマンパワーの限界があるので、進路状況や学習成果等の可視化を行い保護者が見えるようにシステム化している。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

・継続して校舎及び設備については保守管理企業様と円滑な連携の上、安心・安全な教育環境の維持向上に努める。

②今後の改善方策

・改修工事をし、新しく使用する施設、教室の安全の維持を行い、より安全で居心地の良い施設を目指す。

③ 特記事項

- ・別館の改修工事が完工した。
- ・全教室に避難経路マップを掲示し、年度初めに避難経路、避難場所の確認を行った。
- ・避難マップを全校生徒へ配布し、ホームルーム等で確認を行った。
- ・校内の Wi-Fi 環境の整備を行い、全館で学生も教員も使用できるようになった。
- ・SANKO GATE(学生・教員向け連絡用アプリ)を取り入れ、緊急の連絡網や変更点をタイムリーに伝達できた。
- ・留学生対応用としてポケットクを取り入れた。
- ・オンデマンド授業を行うにあたって、Wi-Fi の無償貸し出しを準備した。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・糸山委員(診療情報管理士科について)

防災・安全管理を病院の方では、職員全員参加の避難訓練を年に数回行っている。患者様役の職員など役割を設けて実施している。安全に対する啓もう活動は常に行っている。医事課の職員は個人情報の持出などの役割を事前に決めて対応している。

・鈴木委員(介護福祉科について)

防災・安全管理は施設でも同様に実施をしている。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3

入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・教務(教育成果)と広報(募集活動)の連動を常に意識し、高校生・社会人・留学生等の多様な学びのニーズに応え、学校経営の基盤となる学生募集に尽力していく。留学生の受け入れも引き続き積極的に行い、介護人材不足に対応できる学校となる。

② 今後の改善方策

- ・近年は学費支払いが困難であることを理由に進学辞退する学生も多くなっているため、特に保護者様に対して入学説明会やパンフレットを通じ明確な学費サポート体制や学納金の総額を分かりやすく伝えられるよう努めていく。

③ 特記事項

- ・地域で設定されている広報室と連携しながら、対外折衝・高校への説明会・オープンキャンパス等の機会を通じて魅力を生アックに伝えられるように計画的に活動を展開している。
- ・介護福祉科においては 2020 年度より留学生が入学している。

④学校関係者評価委員会コメント

・糸山委員(介護福祉科について)

近隣病院は留学生受入や視察に行っている状況はある。今後は幅広く受け入れていきたいと思っている。求人自体は紹介会社から介護職の紹介が最近すごく増えていて毎日 5~6 件病院に案内が届いている。前職の経験なしで医療系の仕事に変更したいと考えている方を多く紹介される状況にある。

・鈴木委員(介護福祉科について)

介護福祉士会の課題として若い世代への魅力を伝えることが重要である。専門学校が間に入って SNS 等で発信をしていただきたい。

・北村委員(介護福祉科について)

介護福祉士を目指した理由は小中学校時代に身近に介護の存在があったかどうかにある。介護福祉士への接点が少ないことが一番の問題である。小中学校時代に憧れるという接点をいかに作るかが重要となる。課題の 2 つ目は待遇が悪いという印象があることである。専門学校卒の離職率などを提示する必要がある。資格が取得できるという打ち出しではなく、働き続けられるのかという観点が重要である。

(8)財務

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

現在、第2次中期計画(2018年度～2022年度)の対象期間中であるが、当該計画を着実に実行すると共に今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

なし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・自己点検/評価は学校関係者評価委員会を通じて、問題点の明確な洗い出しと具体的な改善策を検討する。

② 今後の改善方策

- ・法令/コンプライアンスの遵守と個人情報の保護・管理の徹底に努める。
- ・個人情報取り扱いの為の同意書の記入と個人情報管理の徹底の周知を職員会議等で行い、教職員の

意識向上に努める。

③ 特記事項

- ・実施結果は学校ホームページ等を通じ評価の公開を実施していく。
- ・昨年度教務関係において、適正な運営がなされているか教務監査を行った。(今年度総務監査実施予定)

④ 学校関係者評価委員会コメント

・北村委員(診療情報管理士科・介護福祉科について)

個人情報の対策としては、取得時点で書面にてどのような場面で使用するかを徹底して明示する。個人情報は専門部署の一部の者しか閲覧権限がない状態を徹底している。システム侵入対策については、第一級のセキュリティ保護システムを採用している。問題が起こった会社の個人情報保護システムを使用することは禁止にするほど徹底している。

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

- ・施設を活用した社会貢献・地域貢献の提案、企画。
- ・地域や一般の方々に向けた公開講座やイベントを提案し、学生の学びと連動する機会をさらに設けていく。

② 今後の改善方策

- ・市町村および関連企業様との連携やボランティア活動の情報収集を強化しながら、地域の活性化と貢献度向上に繋がる教育活動をさらに広げていく。
- ・新型コロナ感染防止による医療機関や介護施設の業務量増加を少しでも軽減できるよう、ボランティア活動を推進し、主に就職担当者を中心に実習以外での学びの場、考える場を提供していく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・鈴木委員(介護福祉科について)

研修場所が取り合いで不足しているので会場提供の相談をさせていただきたい。

・糸山委員(診療情報管理士科について)

11月3日の健康フェスティバルの実施が決まったら、ボランティアとして学生の力を借りたい。またコロナ禍の影響で看護学生などの国家資格を合格しないといけない学生は特に就職活動より資格取得を優先しているので、就職活動が滞っている状況がある。採用担当としては直接会って決めたいが、目途が立っていない状況なので、マッチングが合うのかが不安である。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

学校評価委員からのご意見をもとに、改善した点や新たな取り組みの報告会を、実施することで、常に課題・問題意識を持って学校運営をすることが出来、毎年良い機会となっている。

本年度は、学生募集、学生指導、就職先への連携をテーマに委員会が実施で、現場、および募集の観点から、ご意見をいただきました。2020年度は、新型コロナウイルスにより、学生指導もオンデマンドなど、新たな生活様式での学習スタートとなったが、引き続き、現場で生きる教育、就職支援を行っていきたい。

糸山委員、鈴木委員より、業界と学校の連携が不可欠な状態で、現場に求める人材育成のために、業界における協力は惜しまない とのご意見。

北村委員より、三幸学園たる所以を感じさせて頂いた会であった。

✓「ビジョン/ミッションを達成するために→なんの為に、なにを、どのように」

✓「学生募集の観点ではなく、業界視座でご意見を頂きたい」

↳何のために？が非常に明確であるからこそ、教育の見直しのポイントも明確であり、実装する。

これをグループ全体で取り組まれていると考えると、だからこそその三幸学園なのだと感じました。

貴校学生の特徴を主体性という言葉でお話させて頂きましたが、先生方の主体的な言動が生徒にも伝播しているのだなと腹落ちしましたとのご意見。

また、卒業生の井上委員、中里委員から、卒業生がいつでも、尋ねられる場であり続けてほしい。先生方の都合の良い時を SNS などでも発信してもらい、来校した際には、在校生にもアドバイスできることがあると思う。また、卒業後すぐなら、仕事以外にも学習の仕方もアドバイスもできると思う。

と、評価委員からの後押しの言葉をいただき、より一層の社会人教育の場として、よりよい学校運営を行えるよう、今後も、自己点検評価を行い、学校関係者評価を継続して行っていきたい。

以上